

現場風景・あかり光景 90

日本のサブカルチャーのセンター的な都市を目指す!?! 池袋の楽しい野心
～池袋のセンターコア・エリアにはアニメ文化がよく似合う～

ハレザタワーの全貌および、広場周辺の様子は本紙来週号のプチ特集にてご紹介します！

写真は旧豊島区役所跡地に建設中の《ハレザタワー》の現場（今年4月7日現在）。ハレザタワーは地上33F、地下2F、高さ約158mの超高層複合ビルだ。ビル自体は今年5月には竣工し、7月にはグランドオープンする予定で、現在は周辺整備に移っている。

このハレザタワー、7Fより上がおフィススペースであるのに対し、2F～6Fにはシネマコンプレックス（T.O.H.Oシネマズ）が入居するという、オフィス主体の複合ビルではかなりユニークなフロア構成になっている。隣接地（旧豊島区公会堂跡地）には8F建てのホール棟（東京建物ブリリア

ホール）が昨年4月に竣工しており、区立芸術文化劇場などが入居している。さらにその隣接地（旧豊島区民センター）には、区民センターを大規模改修後、全面リニューアルした《としま区民センター》（地上9F建て）がやはり昨年竣工、すでに稼働している。3つの建物は33F、8F、9Fとかなり高さに段差があるものの、それぞれの2Fが渡り廊下で

繋がっていて、「一体的な目的」をもって企画されたことがわかる。としま区民センターのさらなる隣接地や、ハレザタワー前の広場に目を向けると、「一体的な目的」がより明確になる。区民センターの隣はアニメ関連グッズで著名な「アニメイト」のビル。ハレザタワー前の広場には「アニメイト」が出店するカフェが、広場内での唯一の商業施設として稼働しているのだ。

池袋は都内各所にある巨大ターミナル周辺の盛り場（新宿・渋谷・東京他）のなかで、昔からサブカルチャー関連の商業施設が多かった。豊島区ではその特性を活かすべく、《国際アート・カルチャー都市づくり》を実施している。公共性の高い旧区役所跡地の活用メ

ニューに、シネマコンプレックスやアニメ関連産業が深く関与しているのはそのせいなのだ。そういう意味で、ハレザタワーがグランドオープンした後の池袋の盛り上がり方が、新型コロナウイルス騒ぎの影響が気にはなるものの、今から楽しみである。（砂耳）